

代表者役職名・氏名
：代表取締役・
岩木勇一郎
設立年月日：平成24年7月2日
住所：〒489-0043
瀬戸市朝日町28番地の2
電話：0561-76-0989
FAX：0561-76-0989
東京スタジオ：〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
2-9-6 Barbison3 302
URL：http://speedinc-jp.com
E-Mail：info@speedinc-jp.com
資本金：1000万円
業種：映像企画製作

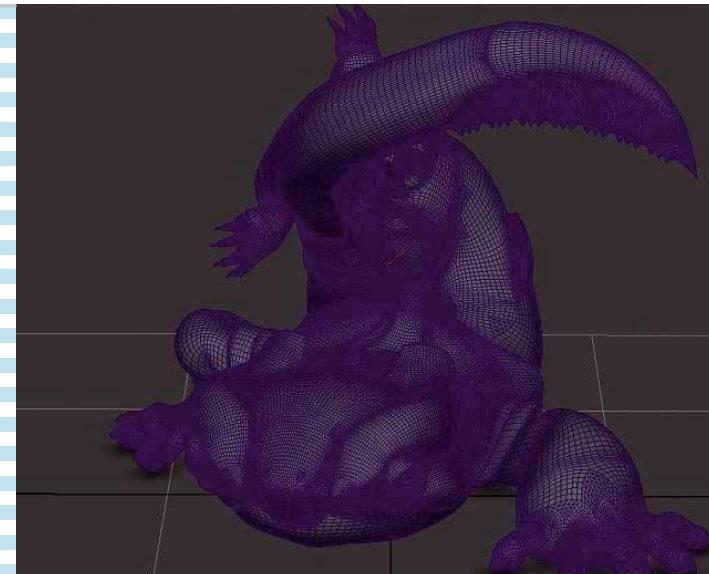
3DCGや3Dプリンターは、 新しい産業創出の起爆剤となるか



3DCGや3Dプリンターの可能性を語る岩木社長



3DCGと瀬戸焼の技術融合で誕生したアクセサリ



3D CGと3Dプリンターから生まれた瀬戸焼のオオサンショウウオ3DCGデータ（左上）、3Dプリンターで出力した原型（左下）、完成モデル（右上）

10 年計画で 子ども向けプログラム実施

製造業が盛んな愛知県に、デジタルコンテンツやソフトウェア関連の企業が少ないのはなぜか、これらジャンルの企業誘致を進めるにはどうすればいいか、そうしたテーマの会議が10年ほど前に東京で開かれ、瀬戸市出身3DCGクリエイター岩木勇一郎社長も参加した。

それを機に愛知県の担当者と一緒に、さまざまな話をする中で、瀬戸には瀬戸焼の歴史があり、そうした伝統とデジタルの融合を図ることで新たな産業が創出できないか、というテーマが生まれた。「瀬戸焼の造形技術を若者に継承し、3DCGモデラーを育てることは有効だ

と考えた」（岩木社長）。

その流れから岩木社長の提言で、瀬戸市主催で平成23年にスタートしたのが「Seto CG Kid's Program」というワークショップ。これはデジタルコンテンツ制作の面白さを体験する講座で、3DCGやプログラミング、陶器づくりなどを各分野のプロから学ぶというもの。10年計画で小学生が大学を卒業して地元就職してもらうことも目論んだ。

その後、岩木社長は地元瀬戸市に3DCG制作を中心とする会社、スピードを立ち上げた。

3Dプリンターが 瀬戸焼と3DCGを橋渡し

同社設立の3年目から、「平成25年度補正中小企業・小規模事業者も

のづくり・商業・サービス革新事業」を活用して瀬戸焼と3DCGとの融合を図る企画を本格始動させた。

瀬戸市が日本最東端の生息地と言われるオオサンショウウオをモチーフに、3DCGの正確さを生かした幾何学的で複雑なデザインや薄い形状などを3Dプリンターで出力して原型を作成。陶磁器では難しいとされる表現を瀬戸焼で成形することに成功した。

この技術を基に個性的なアクセサリなどを企画・製作し、これも商品としてすでに販売を始めた。「3Dプリンターの登場が3DCGと瀬戸焼の技術をつなぐ橋渡しの役目を果たしてくれた。デジタルデータでしかない3DCGを手で触れる実体のあるものに変えてくれるから」（同）。

コアマーケットに柔軟な対応

自社のオリジナルを商品化していくことに加え、OEMのオーダーにも対応している。今年11月にはイギリスで開催された「ハイパージャパン」という展示会にもオオサンショウウオの試作モデルやオリジナル商品などを出展し、注目を集めた。

グローバルマーケットを見据えて、瀬戸市と自社を積極的に売り込む。「大量生産・大量消費の時代は終わり、よりコアなマーケットが主流になってきた。小ロットのモノづくりが3Dプリンターの登場で可能になった。小ロット商品が高付加価値な高額商品となり、利益率はぐんと上がった。そうした時代の流れにも柔軟に対応していきたい」（同）。

デジタルが未来産業を創出する

今後、同社はオリジナル商品の新しい展開に加え、3Dプリンターのデータ作成サービスなどにも力を入れる。「たとえばこれまであった製品も3DCGを取り入れることでより精度を上げたり精密化できたりできる。そこに目を付けている業界は、ジャンルを

超えてたくさんある。逆に言えば、伝統産業であれ、新しいジャンルであれ、3DCGや3Dプリンターによって製品やサービスにどんな進化がもたらされるのかを考える必要がある」（同）。

3DCGや3Dプリンターというジャンルが製造業に新たな可能性を呼び込むとともに、新しい産業創出の起爆剤となるのかもしれない。



瀬戸市主催、スピード企画・運営の「Seto CG Kid's Program」で講師を務める岩木社長



瀬戸の商店街に溶け込むスピードの社屋